

第 2 部 事項別危機管理の要点

第 1 章 自然災害

1 地震災害の発生

A 中学校で、授業中に大きな地震があり、強い揺れとともに教室の窓ガラスが割れ、そのガラス片でけが人が発生した。

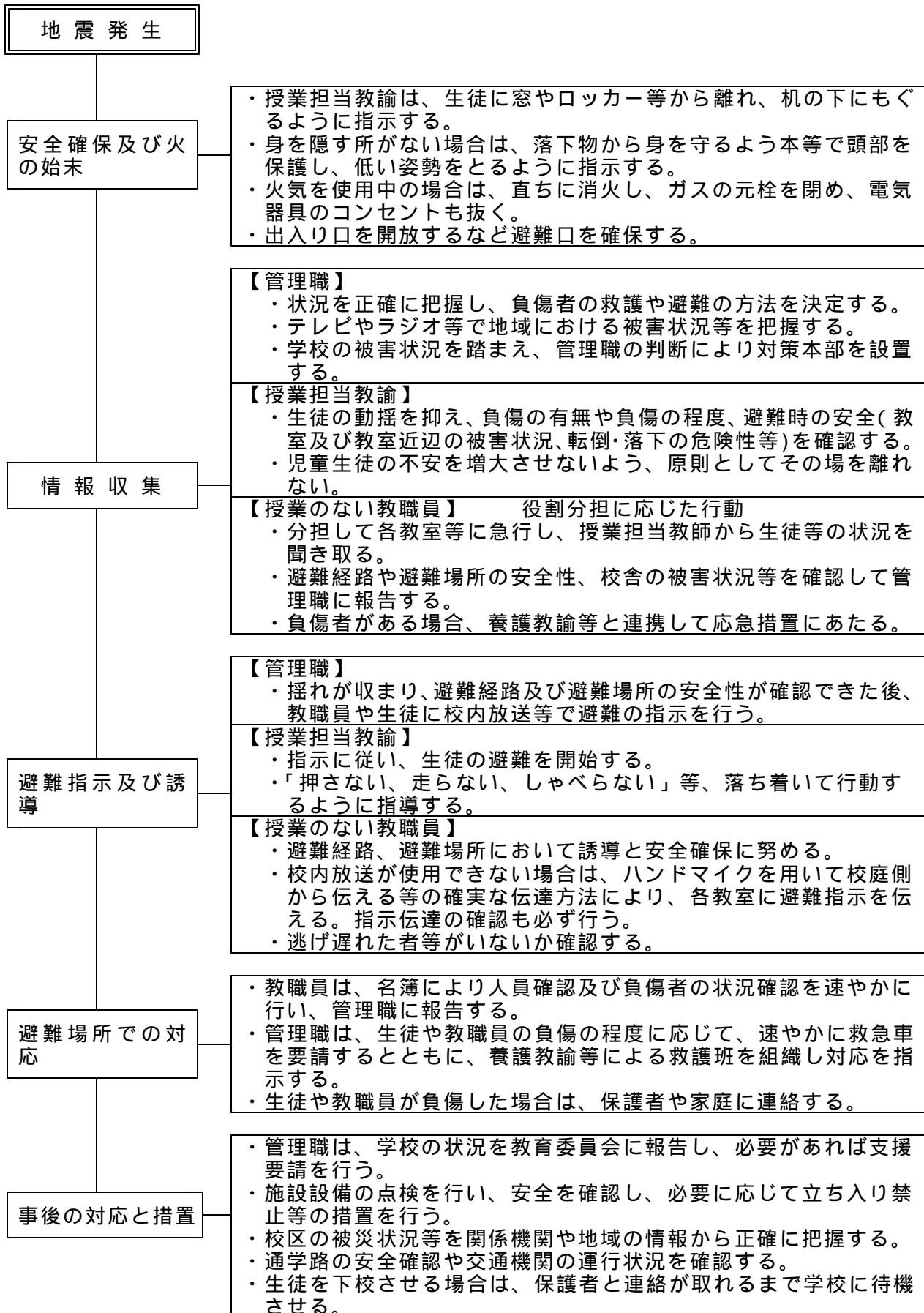
1 事例の分析と課題

- (1) 今後の地震状況について情報収集を行い、生徒及び教職員の安全確保を最優先に、状況に応じた迅速な対応が求められる。
- (2) 突然の地震により、生徒が精神的に動揺していることが考えられるので、安全に避難を行うため、生徒を落ち着かせる対応が必要である。
- (3) 生徒の発達段階、地域や学校の実態、災害発生事例等を踏まえて学校防災計画を作成し、防災対策組織を確立しておくことが大切である。

2 被害を最小限に防ぐポイント

- (1) 防災体制の確立
 - ・日ごろから、教職員の危機管理意識を高めるとともに、マニュアル等に基づき防災体制を確立しておく。
- (2) 管理・運営体制の確立
 - ・施設、設備等の管理体制及び学校施設の避難所としての運営体制を確立しておく。
 - ・ラジオ、防災無線等の点検を行う。
 - ・校舎の耐震性や避難経路の安全性を踏まえた避難基準、避難方法を定めておく。
 - ・転倒や落下の可能性のある物の除去等、平素から避難経路の安全確保に努める。
- (3) 実践的な避難訓練の実施
 - ・生徒が地震発生時にも落ち着いた行動ができるよう、平素から緊急時の安全な行動の取り方について理解させておくとともに、様々な場面を想定した防災避難訓練を実施する。
- (4) 教職員の訓練の実施
 - ・生徒に対し「机の下にもぐれ」、「本を頭にのせる」、「姿勢を低くしろ」等、その場に応じた的確な指示が、地震発生と同時にできるように訓練しておく。

3 緊急対応のポイント



2 風水害の発生

A 小学校が所在する地域では、午後から台風の影響で風雨が強まり予期せぬ集中豪雨となった。校区を通る県道の一部が冠水し、通行止となったとの連絡が町役場からあった。

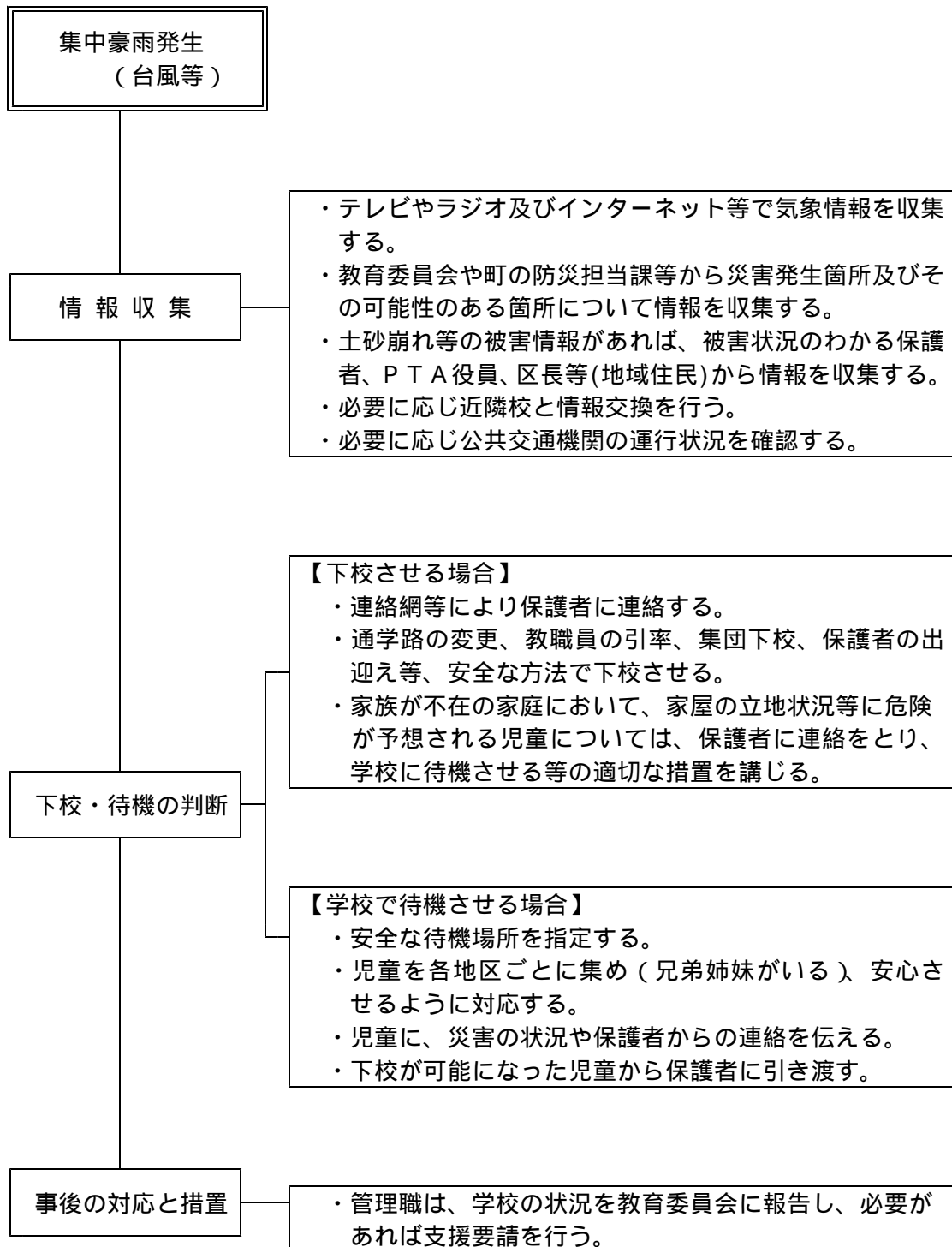
1 事例の分析と課題

- (1) 今後の気象状況について情報収集を行い、児童及び教職員の安全確保を最優先に、状況に応じた迅速な対応が求められる。
- (2) 冠水や土砂崩等の被災箇所を確認し、児童の通学経路の安全状況を把握することが求められる。
- (3) 高校においては、バスや電車を利用して通学している生徒もいるため、公共交通機関の運行状況の把握が必要となる。
- (4) 児童が登校前であれば、休校や始業開始を遅らす等の措置も必要である。

2 被害を最小限に防ぐポイント

- (1) 情報収集手段の整備、点検
 - ・ラジオ、テレビ、電話、ファクシミリ及び防災無線等の整備、点検
 - ・学校連絡網、関係諸機関及び保護者等の連絡先一覧の作成、点検
 - ・情報収集のためPTA役員や区長等との情報連絡体制を整えておく。
- (2) 校区内における危険箇所の把握及び周知
 - ・関係機関への照会等により、校区内の危険箇所（土石流危険渓流等）を把握し、児童、保護者及び教職員に周知しておく。
- (3) 児童生徒の通学路の確認
 - ・家庭訪問、児童(生徒)カード等を活用して、児童の通学路を確認しておく。
- (4) 児童生徒の引き渡し訓練
 - ・災害発生時の児童の引き渡し方法について、年度始め等に保護者に説明を行う。
 - ・授業参観後など、保護者が学校に集まった機会に、児童の引き渡し訓練を実施する。
- (5) 下校措置を判断する際の留意点
 - ・管理職は、気象情報や土砂崩れ等の有無について、関係機関に確認を行い、併せて地域住民等からも情報等を入手して通学路の安全状況を把握する。
 - ・必要に応じ隣接校や教育委員会と情報交換を行い、児童を下校させるか待機させるかを総合的に判断する。
 - ・高校においては、公共交通機関を利用し遠距離から通学する生徒もいるため、迅速な判断が必要になる。

3 緊急対応のポイント



3 火災の発生

A 高校で、授業中に特別教室から火災が発生した。

1 事例の分析と課題

- (1) 生徒及び教職員の安全確保を最優先とする。
- (2) 速やかに消防署に通報するとともに、状況に応じて初期消火にあたり、負傷者の応急処置や避難誘導等の迅速な対応が求められる。

2 未然防止のポイント

- (1) 防火体制の確立
 - ・ 日ごろから、火元責任者を中心に、教室や特別教室の火気点検を行い、消火器の所在やその使い方を熟知しておく。
 - ・ 避難経路の指示、約束事の掲示、出入り口の安全確保を行う。
 - ・ 通報連絡、初期消火、避難誘導、重要書類等の搬出、救護などの役割分担に応じて、全教職員が対応できるよう防火体制を確立する。
 - ・ 学校付近からの出火に際しても、生徒を安全に避難させ、速やかに防火体制をとる。
- (2) 実践的な避難訓練の実施
 - ・ 多様な時間帯、多様な出火場所を想定した避難訓練を実施する。
 - ・ 負傷者等の避難を円滑に行うための方法を明確にして訓練を行う。
- (3) 判断の方法
 - ・ 緊急時に、管理職の判断が得られない場合の対応についても検討しておく。

3 緊急対応のポイント

